






新幹線駅等を起点とする交通ネットワーク




北海道新幹線で来道された方々に、目的地に円滑に移動していただけるよう、交通事業者や関係団体などによる交通ネットワークの整備が進められています。

また、新幹線開業効果の拡大に向け、新幹線で来道される方々に道内を広く周遊していただけるよう、各地域の関係者により、様々な取組が進められています。



道南方面へ 函館、江差など

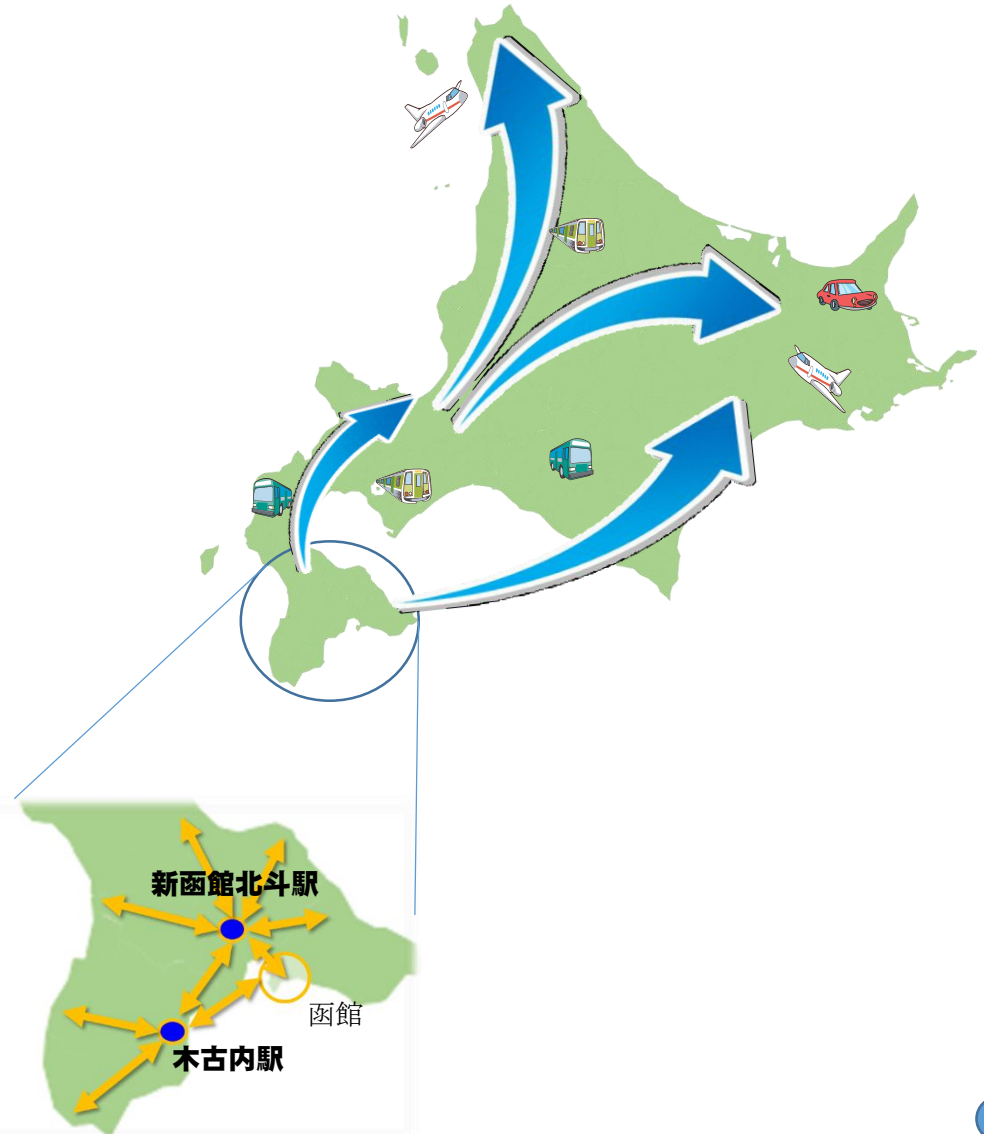
-  新函館北斗駅と函館駅を結ぶ「はこだてライナー」が1日16往復し、全ての新幹線と接続します。
-  木古内駅と五稜郭駅の間は、第三セクター鉄道会社の「道南いさりび鉄道」がJR北海道から経営を引き継ぎ、同区間を運行します。
-  路線バスは、既存路線が新幹線駅に乗り入れるほか、新函館北斗駅と函館市内・函館空港等を結ぶ新規路線が開設されます。
-  観光バスは、既存ルートの新幹線駅への乗り入れや、新幹線駅を起点とする新たなルートの造成が進められています。
-  新函館北斗駅から函館市内への定額タクシーが運行されます。

道央方面へ 札幌、登別、ニセコなど

-  函館－札幌間の特急列車「スーパー北斗」「北斗」の全便（12往復／日）が新函館北斗駅に停車し、新幹線と接続します。
-  函館－札幌間の都市間バスが新函館北斗駅経由となるほか、新幹線開業に合わせ、新函館北斗駅から道央への新たな企画観光バスも運行されます。
-  函館空港からの航空路線が新千歳空港・丘珠空港まで約40分で結びます。また、これら道央2空港での乗り継ぎにより、道東・道北方面への空路での移動が可能です。

道東・道北方面へ 帯広、釧路、根室、旭川、稚内、網走など

-  函館空港からは新千歳空港・丘珠空港での乗り継ぎにより、道東・道北方面への空路での移動が可能です。
-  札幌から各方面に特急列車や都市間バスが運行されており、札幌行の特急列車などからの乗り継ぎにより、道央を経由して道東・道北方面への移動が可能です。



鉄道ネットワーク

概要

【函館方面へのアクセス】

- 新函館北斗駅と函館駅を結ぶ「はこだてライナー」が、全ての新幹線と接続して運行されます。
- 道南いさりび鉄道が木古内駅から五稜郭駅間を運行します。

【札幌方面へのアクセス】

- 函館と札幌を結ぶ特急列車「スーパー北斗」「北斗」の全列車が新函館北斗駅に停車し、新幹線と接続します。

【道南いさりび鉄道】

江差線（五稜郭・木古内間）の運行



道南いさりび鉄道

- ・全列車のJR函館駅への乗り入れや新幹線・特急列車との乗継利便性確保などを実施。
- ・食、観光、文化など道南の地域資源をPRする列車を整備。（道補助）

【JR北海道】

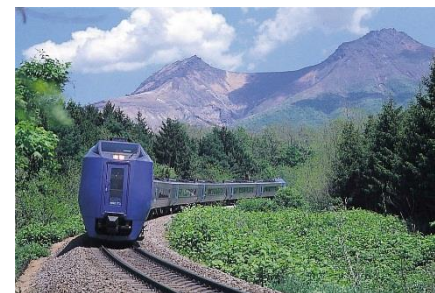
特急列車の利便性向上（スーパー北斗、北斗）

- ・12往復体系とし、すべて新函館北斗駅に停車。「スーパー北斗1号」と「スーパー北斗24号」の2本を除く11往復が新幹線と接続。
- ・新幹線と在来線特急を新函館北斗駅で乗り継いで利用する場合、乗継割引が適用。

【JR北海道】

アクセス列車「はこだてライナー」の運行

- ・基本3両編成で16往復設定し、全ての新幹線と接続。
- ・開業時など極端に混雑する場合の対応として、ホームの6両化を実施。



バスネットワーク

道央方面と結ぶバスネットワーク充実

【北都交通、北海道観光バス等】

函館－札幌間の都市間バスを新函館北斗駅経由で運行。

【北海道アクセスネットワーク】

新函館北斗駅から大沼等を巡る洞爺・登別までの企画観光バスを運行。

観光バス等の充実

【北都交通、HKB】

新幹線駅を経由又は起点とする定期観光バスルートを新設。

【函館バス】

函館発着の定期観光バス「江差・松前名所周遊号」を新幹線駅で乗降可能に。



概要

【路線バス】

○既存路線の新幹線駅への乗り入れや、新函館北斗駅と函館市内や函館空港等を結ぶ新規路線が開設されます。

【都市間バス】

○函館－札幌間の都市間バスが新函館北斗駅経由となるほか、新幹線開業に合わせ、道南から道央への新たな企画観光バスも運行されます。

【観光バス】

○既存ルートの新幹線駅への乗り入れや、新幹線駅を起点とする新たなルートの造成が進められています。

道南の路線バスネットワークの充実

【函館バス】

既存路線を新幹線駅に乗り入れるほか、新規路線を開設。（新函館北斗駅への乗り入れ本数は、現行30本から約100本に拡充）

【北海道観光バス】

新函館北斗駅－函館市内（湯の川）間の新規路線を開設。

【函館帝産バス】

新函館北斗駅－函館空港間の新規路線を開設。

【大沼交通】

新函館北斗駅－大沼地区間の新規路線を開設。

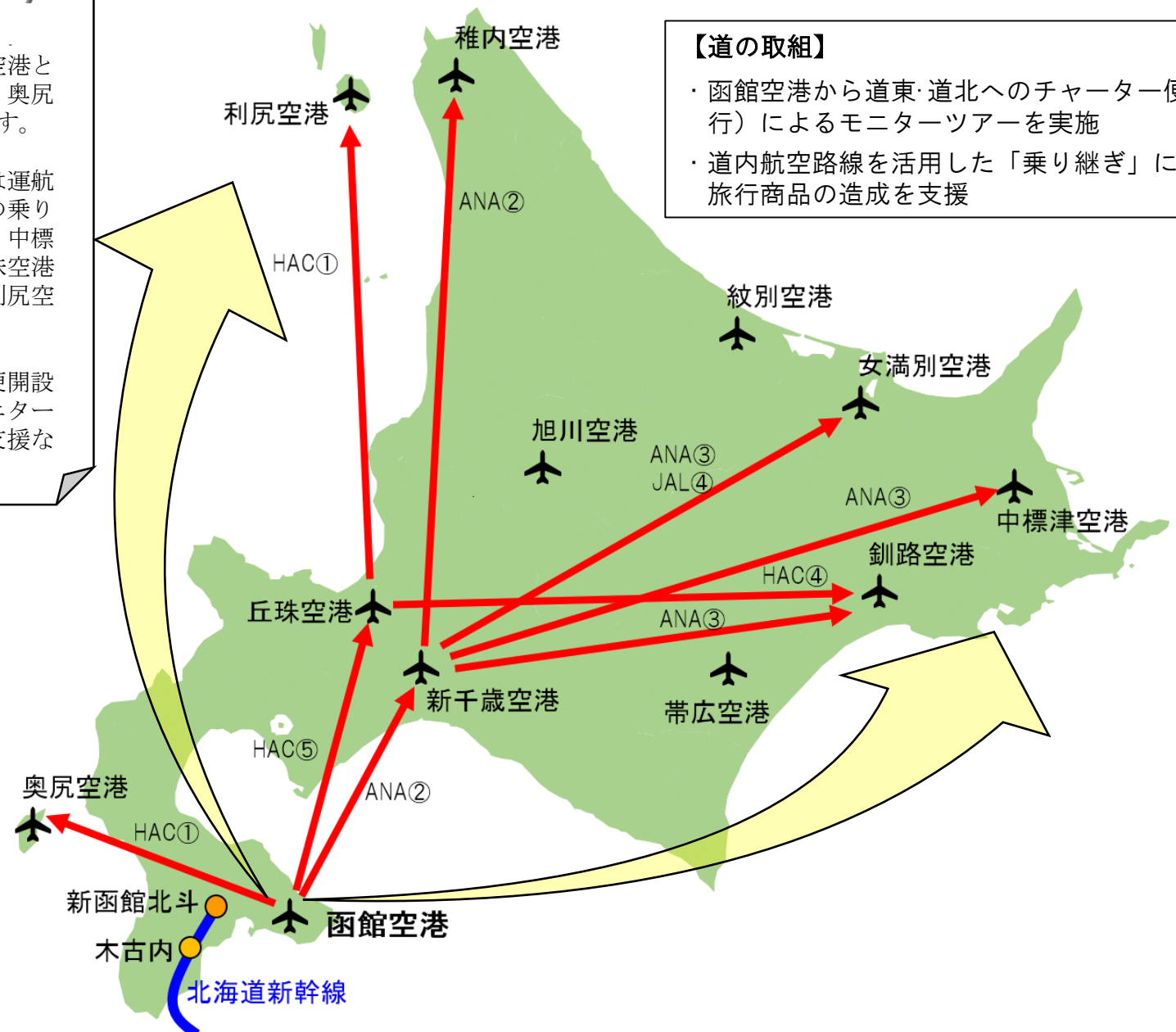
航空ネットワーク

概要

- 函館空港からの直行便は、新千歳空港と2往復/日、丘珠空港と5往復/日、奥尻空港と1往復/日が運航されています。
- 現在、道東・道北方面への直行便は運航されていませんが、新千歳空港での乗り継ぎにより、稚内空港、釧路空港、中標津空港、女満別空港へ、また、丘珠空港での乗り継ぎにより、釧路空港、利尻空港への移動が可能です。
- 道では、道東・道北方面への直行便開設に向けて、チャーター便によるモニターツアーの実施や旅行商品造成への支援などに取り組んでいます。

【道の取組】

- ・函館空港から道東・道北へのチャーター便（直行）によるモニターツアーを実施
- ・道内航空路線を活用した「乗り継ぎ」による旅行商品の造成を支援



※○数字は、便数
(H28.1月現在)

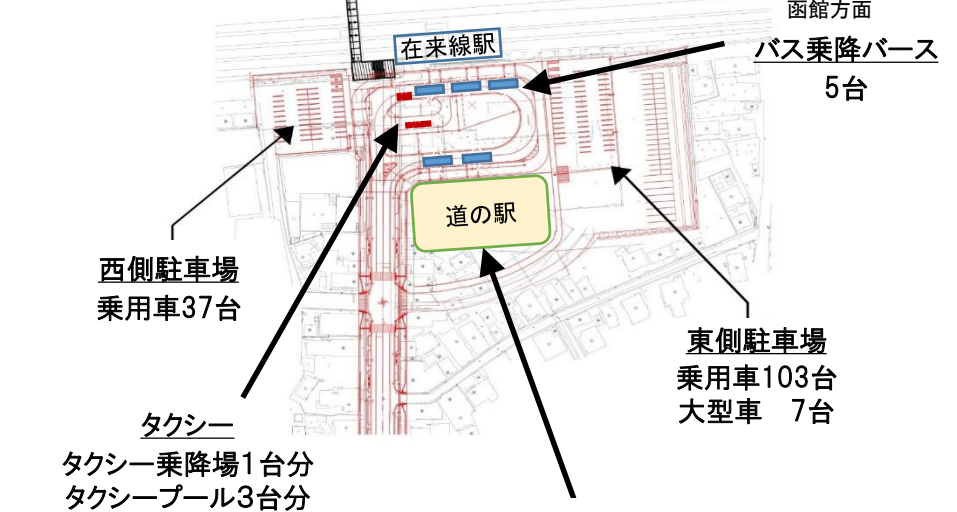
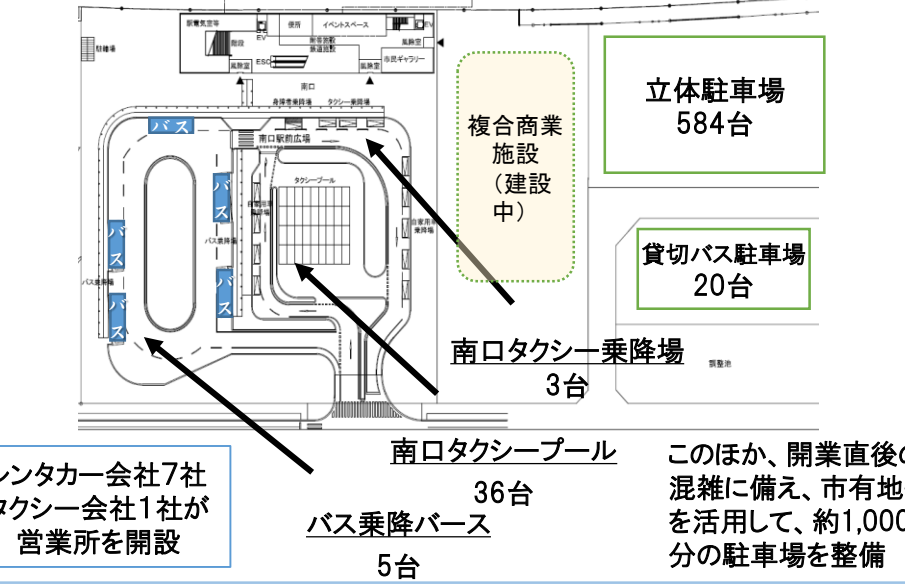
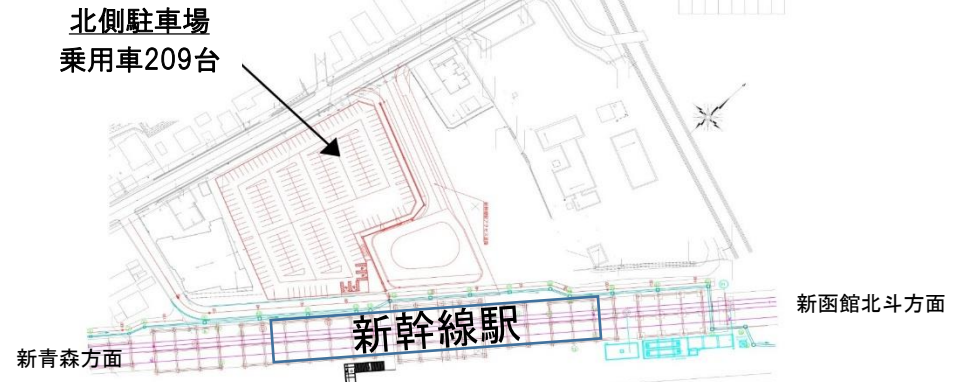
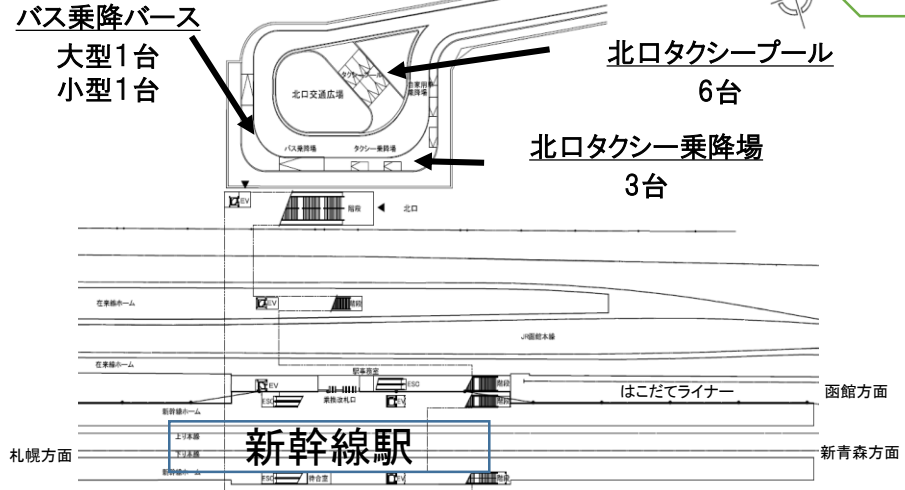
新幹線駅周辺の交通関連施設等の整備状況

新函館北斗駅

概要

○両駅とも駅舎は完成し、
周辺整備も着実に進め
られています。

木古内駅



『道の駅「みそぎの郷きこない」』
がH28年1月13日オープン
センター内にはレンタカー会社
2社が営業所を開設

道南の道路ネットワーク

概要

- 観光客増加による主要観光地、函館空港等への交通量増加に備え、渋滞緩和対策や交通事故対策が行われています。
- 新函館北斗駅と道央方面や木古内方面への道路走行環境の改善が進められており、観光客移動の利便性の向上が図られています。
- H27.3月に函館新外環状道路の函館IC-赤川IC(2.4km)が開通したほか、函館新道の一部が4車線化され、函館IC-七飯本町IC間の規制速度が80km/h→100km/hに緩和されています。



来訪者の増加による 交通流動の変化に対応した道路整備



新幹線開業効果の全道への波及

概要

○新幹線の開業効果を、新幹線駅がある道南地域にとどめず、広く全道に波及させるため、各地域において地域が主体となった新たな取組の検討が進められているほか、道を中心に、都市間バスや航空路線の需要動向の調査、レンタカーによる周遊促進を図る取組を進めています。

- ◇道が中心となって実施しているもの
- ◆道以外が実施しているもの

道央エリア

- ◆噴火湾をクルーザーで横断する新たな観光ルートの確立に向けたモニターツアーの実施〔北海道新幹線×nittann地域戦略会議〕
- ◇登別-洞爺湖-倶知安間の都市間バスの試験運行
- ◇函館-倶知安間の都市間バスやエリア内周遊バス等の試験運行
- ◇函館発のレンタカーによるエリア内周遊モニター事業の実施

道南・青函エリア

- ◆新幹線駅からの定額タクシーの運行
- ◆函館-大間航路の始発時刻の新幹線開業に合わせた見直し〔津軽海峡フェリー〕
- ◆路面電車、バスへのICカード導入に向けた取組（函館市企業局・函館バス）
- ◇青函エリアの各種フリー切符の一体的なPRの展開（津軽海峡交流圏フリーパス）
- ◇駒ヶ岳周辺をめぐる観光タクシーの試験運行

道東・道北エリア

- ◆稚内、利尻島、礼文島でフェリーとバスが4日間乗り放題となるフリーパス(45° NPASS)を期間限定で販売 ※H28年度の実施も検討中〔利尻礼文観光推進協議会・稚内夏季観光客誘致協議会〕
- ◆函館-丘珠-釧路間の乗継便を活用したツアー商品の造成や空港から市街地までの路線バス運賃割引等の実施〔釧路空港利用整備促進協議会〕
- ◇函館空港から道東・道北の空港への直行チャーター便によるモニターツアーの実施

全道域

- ◆道内の高速道路が4～6日間定額で乗り放題となるドラ割『北海道観光ふりーぱす』の販売〔H28. 3. 26～5. 31 NEXCO東日本北海道支社〕
- ◇レンタカーと高速道路の連携による道内全域への周遊促進（モデルルートやガイドマップの作成、スタンプラリーの実施）
- ◇道内航空路線を活用した乗り継ぎによる旅行商品の造成促進（旅行会社への支援）
- ◇新幹線駅からの交通ネットワークに関する情報の効果的な発信（マップ、WEBサイトによる情報提供等）

